

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム・ファミリア (ユニット②)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100138		
法人名	スクー株式会社		
事業所名	グループホーム・ファミリア (ユニット②)		
所在地	026-0055 岩手県釜石市甲子町15-86-5		
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果市町村受理日	令和6年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホーム・ファミリアでは、併設されている有料老人ホームの入居者とも自由に交流でき、上下の階を行き来することができます。コロナの規制も解除され、以前のような外部の団体を招いての行事も復活していく予定なので、今後は交流がより盛んになってくると思います。グループホームと有料老人ホームの職員は半数以上が兼務職員の為、入居者の方々も気兼ねなく館内を行き来出来る環境になっていると思います。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

釜石中央インターチェンジから車で数分の山際に住宅地に位置し、近くには、市の支所や図書館、病院、スーパーなど、多くの生活関連施設がある。法人は、タクシー事業と介護関連事業を運営しており、事業所は3階建ての建物の3階に2ユニットのグループホームを、1、2階に有料老人ホームを併設し、これらの施設は相互に連携しながら運営されている。また、町内会に加入し、地域との積極的な交流を図り、事業所の駐車場を利用して地域の避難訓練も実施している。施設長は「利用者本位」を重視し、日々の暮らしの中での会話や雑談を通じ利用者の意向の理解に努めている。意思疎通が難しい方には、表情だけでなく筆談や家族からの情報収集を通じて本人の意向を把握し、それに適した対応を心掛けている。事業所では看取りも行っており、状態が重篤化した場合には利用者や家族のニーズを考慮しながら、適切な支援体制を整えている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年11月10日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム・ファミリア (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、各職員が常に意識を持って行動できるようにフロア内に掲示しており、職員間でも声掛けをし合いながら、サービスを提供している。	設立当初に管理者と職員で作成した事業所理念「お客様の安らぎと暮らしを支える」をホールに掲示し、職員は就業前にそれを確認している。管理者は意識づけのため月1回の職員会議で理念を説明し、職員は日常の会話の中で利用者の意向を確認しながら、利用者一人一人の生活スタイルに合わせた支援に努めている。	理念の見直しに際しては、まず、地域密着型サービスとして何が重要かについて、経営者、管理者及び職員全員で話し合い、共有していくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過で行事に参加することはかなわなかったが、施設の駐車場を利用して行われる、町内の避難訓練を見学するなど、交流ははかっている。	事業所は町内会に加入し、事業所の駐車場を会場とした町内会避難訓練が行われ、職員は歩ける利用者とともに参加している。コロナ禍前は利用者と職員が散歩し、地域との交流を重ねたり、ほたる祭りやみずき団子づくりなどの行事も行われていた。コロナ禍の収束状況に応じて地域との交流を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ過でなかなか地域の人との交流はなかったが、コロナが収束しているので、今後はまた、地域の方々との交流を増やし、見ていただく機会を増やしていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月、第4週の金曜日に運営推進会議を設定している。町内会や民生委員、市の担当者にも参加していただき意見をいただいている。現在はコロナ禍のため、書面開催となっている。	利用者・家族と市担当者、民生委員2名、町内会長や事業所の管理者2名、看護師、常務理事で構成され、以前は奇数月の第4金曜日に開催されていた。令和4年度以降、コロナ禍のため書面開催とし、管理者は委員の自宅を訪れ会議資料と意見記入の用紙を届けている。	コロナ禍の収束状況に合わせ、対面での会議開催を期待したい。併せて、事業所の現状を明らかにし、「次のステップに向けた目標」を実現するため、運営推進会議のメンバーが協力者として関わることも検討されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何か疑問質問があるたびに、市の担当者に連絡し、返答を頂いている。	月に2回ほど市の担当課を訪問し、事業所専用ボックスを確認しながら、事業所の状況などを報告するとともに、市から介護保険情報等の提供を受けている。処遇困難なケースについては、市や地域包括支援センターに相談し、解決策の提案を受けながら対応している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・ファミリア (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない方針。それに伴い、権利擁護に関して各職員には動画研修や、必要時には追加資料による研修も行っている。	身体拘束を行わないケアを理解するため、外部研修サイトを活用し職員の認識と意識向上に努め、また職員同士で申し送りノートや経過表を使用し、支援方法を話し合っている。家族にはそれに伴うリスクをオープンに報告し、適切な対応等についての確認を日常的に行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修にて、高齢者虐待防止についての研修を行っており、定期的に職員個々へのメンタルケアにも取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の個別研修に権利擁護の研修を組み込み取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設への申し込みの際、事前にケアマネジャーより説明をして頂いている。施設見学申込みの際は管理者が概要やサービスについて説明を行っている。また、契約時にも同様の説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、遠方の家族に関しては都度電話や手紙などで、意見や要望のやり取りを行っている。	コロナ禍で面会が制限されたため、電話で利用者の状況や通院結果を報告し、毎月の請求書に手紙を添えて家族の意見を伺っている。利用者は、経営者や職員、家族、友人等に意見や思いを伝えられる環境にあり、意見や不満が出された場合には、申し送りや介護職員会議などで検討し、サービス等に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	併設の有料老人ホームと職員が兼務しているため、月一回、階下の有料老人ホームの職員とヘルパー会議を行い、各職員の意見や提案を聞き取りしている。	毎日の申し送りや職員会議で、職員意見の把握に努めている。職員の意見を物品補充などに活かしている。法人の常務も職員の様子に目を配り、必要に応じて面談を行うようにしている。	

事業所名 : グループホーム・ファミリア (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休の取得、各職員の実績に応じた手当の支給を行っている。また産休、育休、介護休暇などの取得や職場復帰後の勤務調整なども行えるよう環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験年数や技術に応じた研修への参加を行っている。介護に関する資格取得に関しても会社独自の補助金制度策定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内でデイサービス、グループホーム、有料老人ホームを運営しており、各事業所との研修や行事等で交流する機会を設けている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込みから入居までの期間、施設入居に関する本人の不安や希望などを聴き取りし、入居後のサービスに反映できる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の訪問時には管理者と施設看護師が同行し、家族の不安や要望を聴き取りしている。また、入所後の通院や服薬管理などを説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設の有料老人ホームを含め、本人の状態や家族の希望を加味しながら必要時は他サービスの検討、対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	館内の掃除や食後の片付けなど本人のできる範囲の内容で職員と一緒にいただいている。		

事業所名 : グループホーム・ファミリア (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症予防のため以前より面会の頻度は減っているが、面会方法の工夫や衣替え、通院介助等を家族に依頼しできるだけかわりが持てるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過も終わり面会の制限も緩めていくので、家族だけではなく、近所の友人や知人との面会を継続させるようにしていきたい。	入居時に利用者の馴染みの関係の把握に努めている。地域の美容院に出かけたり、近所のスーパーに買い物に出かける利用者もいる。地域の方と携帯電話で連絡をとり、面会に来てもらっている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活や余暇活動などを通じて個々の関係性を見ながら互いに関わりが持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後の受け入れ先や今後の相談など、利用終了後も家族と相談や話し合いなどを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活スペースに関しても、無理強いせず、最低限の清潔保持は保ちながら、利用者の希望にできるだけ寄り添えるようにしたい。	日々の暮らしの中で、職員との対話や雑談から、入居者の意向を理解している。意思疎通が難しい方には、表情だけでなく筆談を活用したり、家族から生活歴を伺って本人の意向を把握する努力を行っている。本人の意向や要望は、申し送りノートや個人の経過表に記入して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の相談時から面談までに家族やケアマネ、本人から情報を得ながら本人の状態や生活歴の把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の経過表を用いて、利用者の日々の過ごし方やADL、心身状態の把握に努めている。		

事業所名 : グループホーム・ファミリア (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者個々の経過表や申し送りノートにて情報を共有し、ヘルパー会議や毎日の口頭の申し送りでも各職員からも意見をもらい、計画の作成を行っている。	入居時に利用者や家族の意向を確認し、計画作成担当者が介護計画案を作成して職員協議を行ったうえで、家族に説明している。見直しのため、短期は3ヵ月毎、長期は6ヵ月毎に達成状況をアセスメントしている。介護度の更新や状況に変化があった際には柔軟に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過表にて利用者個々の日常の様子や体調を記入し、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の有料老人ホームや法人内のグループホーム、薬剤師と連携し、本人、家族の要望により個々にあったサービスが提供できるよう行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや地域の方々の支援を受けながら生活できるよう努めている。また、協力医による予防接種や薬局による居宅薬剤管理なども行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医については、入居後も継続して関わられるよう支援している。また、状態変化時は訪問診療などへの切り替えも行いながら、適切な医療を受ける事が出来るよう支援している。	入居前からのかかりつけ医を継続して受診しており、変更する場合には紹介状をいただき対応している。受診や通院は基本的に家族が同行しているが、困難な場合には看護師が代行し、その都度管理者が手紙や電話で家族に受診結果を報告している。眼科や整形外科などは、入居者の状態に応じて受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師に入居者の日々の体調変化や様子などを報告し、医師への情報提供や通院につなげている。		

事業所名 : グループホーム・ファミリア (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時は、管理者、施設看護師が家族や病院の連携室と連絡を行いながら連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その都度家族、主治医と相談し、本人の状況に沿った方針を決めていく。終末期に関しては、家族と密に相談して、訪問診療に切り替えるなどの対応もしている。	事業所では以前から看取りを行っている。看取りに関する指針を作成し、入居時に家族に説明している。重度化した場合には、状態に応じた介護用品を使用したり、スタッフルームの近くに居室を変えたりしている。終末期には、家族と話し合い、在宅診療に切り替えて看取り介助を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の有料老人ホームと連携し、急変時や事故発生時の連絡、連携について定期的に確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の有料老人ホームとの年2回の合同訓練を行っている。コロナ禍で実践的な訓練ができていなかったため、今後は利用者も参加型の実践的な訓練も行っていく。	併設の有料老人ホームと合同で年2回の避難訓練を行っている。ハザードマップで土砂災害の対象区域となっており、避難訓練は3階への垂直避難としている。事業所の駐車場は地域の一次避難場所に指定され、例年9月の防災の日には入居者も参加して地域の防災訓練が実施されている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の動画研修の項目にて接遇の研修を組み込んでいるので、各職員には研修も踏まえて言葉遣いをはじめとする利用者への対応を勉強してもらっている。	利用者への言葉遣いは、その方に合わせて方言を使用することもあるが、口調がきつくない様に注意している。職員の言葉遣いや語調が利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねることのないよう、礼節や接遇を中心に、計画的に動画を用いた研修を行っている。	職員が入居者に発する言葉の内容や語調が、入居者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねたりしないよう、①話し合い、②改善提案、③実行のプロセスを、事業所全体で取り組んでいくことを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と職員の話しやすい環境と関係づくりに努めており、日常の意思決定についてもできるだけ行ってもらうよう支援している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・ファミリア (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	目安となる入浴や掃除等の日程は決まっているが、利用者の調子やペースにより変更している。レクや軽作業も本人のペースに合わせて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の愛用品や嗜好などを考慮しながら支援している。本人希望による買い物同行、代行も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は1Fの厨房にて調理を行っている。行事食やイベントの際は季節に応じたメニューの提供を行っている。食事のほか定期的に入居者、職員と一緒におやつ作りも行っている。	食事は1Fの厨房で調理している。食事への手伝いは少ないが、月1回のレクリエーションでは入居者が職員と協力して調理し、団子やホットケーキづくりなどを楽しんでいる。季節に合わせたメニューを提供し、特別な行事では回転寿司店や御節料理を取り寄せて、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取の声掛けや支援を行い、本人の好みのものが摂れるよう努めている。また、本人の咀嚼や嚥下の状態に合わせた食事形態やトロミ付けなども調整しおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床、就寝時と各食事後に本人に合わせた口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者ごとに毎日チェック表に記入し、パターンを分析している。	排泄チェック表で個々の排泄状況を把握し、習慣やパターンに応じた支援を行っている。トイレでの排泄を意識的に取り組み、紙オムツ使用からリハビリパンツ使用に変更になった方もいる。自立の方が8名、オムツが2名、その他の方はリハビリパンツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて個々の排便チェックを行いケア職員と看護師が確認している。下剤にて排便コントロールが必要な方は施設看護師が都度下剤の量を調整している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・ファミリア (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴目安となる曜日と時間の設定はあるが、体調や気分により時間帯や日時の変更を行っている。また、階下の有料老人ホームの大浴場や個室も使用しながら、ご自分のスタイルで入浴ができる様に支援している。	入浴は本人の希望に沿って週2回としている。階下の有料老人ホームの大浴槽を利用したり、状態に応じて個室、機械浴を利用することができる。本人や家族から習慣や好みを聞き、長湯などの希望にも対応している。入浴時には会話を楽しむ方、静かに入浴を望む方とそれぞれである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の生活リズムを意識しながら、日中は活動し、夜間は休息できるような環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と連携し、居宅療養薬剤管理指導をお願いしている。管理者や看護師が薬剤師に利用者の状態や通院内容を報告し、薬の調整や職員への指導、主治医への状態報告もお願いしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	在宅時の生活や趣味等を継続しながら生活できるように周囲へ相談しながら個々の活動が行えるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望者には出来る限り外出できる対応を心掛けている。その他にも花見や散歩などの外出レクも行っている。	家族と食事に出かけたり、親戚、友人に会いに行く方もいる。花見や紅葉狩りにドライブで出かけたりしている。コロナ禍が収束したら、外に出かける機会を増やし、地域とのつながりを大切にしていきたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務所内の個人金庫にて管理している。本人からの希望時や買い物の際は必要に応じて渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望時に行っている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム・ファミリア (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部には季節感を出し、メリハリのある空間保持を心掛けている。	3階に配置された二つのユニットは、左右対称にコミュニティスペースを中心に配置されている。パネルヒーター、エアコン、エアドッグなどの空調設備が備えられ、建物内は清潔で刺激のない環境になっている。また、レクリエーション担当者が入居者と協力して作成した切り絵などを共有スペースに飾り、季節感を楽しむ工夫もされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	両ユニットの仕切りが無く、利用者同士が自由に行き来している。階下の有料老人ホームの入居者も行き来している。また、個々で活動できるようなゆっくりとできるスペースも設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、自宅からの持ち込みのもので配置するなどなるべく自宅に近いような雰囲気の一部作りできるように工夫している。	ベッドやクローゼット、洗面台の他にパネルヒーターと24時間換気設備が設置されている。洗面台で整容などを行うことができ、車いすでも使用できる高さになっている。入居者は、テレビや冷蔵庫、写真、位牌などを持ち込み、週1回は職員とともにシーツ交換や清掃を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室内に洗面台と鏡が設置してあり、整容などを自分で行えるようになっている。洗面台は車いすでも使用できる高さとなっている。また、共用部や廊下、トイレ内には手すりがあり、各トイレ内は車いすの方も使用しやすい広さと配置になっている。		